

## 「テキサス大学 サンアントニオ校の図書館」

曾根田 智美

私が一昨年からおよそ一年間滞在したサンアントニオ市は、アメリカ合衆国とメキシコの国境近く、テキサス州の歴史ある町の一つです。町の中心には、テキサス独立軍とメキシコ軍との戦いの場となり、テキサスの自由のシンボルとされる「アラモの砦」があり、ジョン・ウェインが映画で演じたことでも有名です。また、パセオ・デル・リオ川がダウンタウンを一周しており、その周りにはバーやレストランなどが軒を連ね、人工の川とはいえ自然の中を歩いているような感覚のする素敵な所です。

私が通ったテキサス大学サンアントニオ校（頭文字をとって「UTSA」と呼ばれています）は、そのダウンタウンから車で約30分北に上った所にあります。キャンパスは広く、郊外にあるため、リスやスカンク、鹿などを見ることが出来るユニークな学校です。サンアントニオという土地柄、生徒はヒスパニック系が多く、そのためか、皆のんびりしておおらかな人が多かったと思います。

渡米して間もない頃は、英語もままならず、勉強の毎日でした。学校の授業は聞いているだけで精一杯で、内容を理解するための予習復習は、私の欠かせない日課でした。学校から帰ってきて、まず自分の部屋で教科書などを開くのですが、テレビやベッドなどの誘惑が多いためなかなかかかどりませんでした。そこで良く利用したのが大学の図書館です。UTSAの図書館は二層構造で、1階と2階が吹き抜けでつながっている開放的な造りをしており、1階はレファレンスや貸し出しを行う場所となっている他、コンピュータが十数台おいてあり、インターネット検索を行うことができたり、CDやマイクロフィルムなどの資料のある閲覧室があります。2階は膨大な量の本が並ぶ書架を兼ねた閲覧室やコンピュータールームがあり、私はよく2階の閲覧室の机に教科書を並べて勉強をしました。夜遅くまで開館しているので、テスト前などは閉館時間ぎり

ぎりまで多くの学生が勉強していたのを覚えています。

UTSA に来て分かったことは、アメリカの大学では図書館が大変重要な役割をしている、ということです。日本の大学生は最悪の場合、図書館に触れることなく卒業してしまうこともあります。アメリカではそうはいきません。一回生は必ずと言って良いほど図書館の利用の仕方、つまりは情報収集の方法を習います。そして回生を問わず、図書館で調べものをしてくる課題も必ず出されます。したがって大学の図書館の生徒へのサポートも徹底していました。レファレンスにいる職員の方々は皆さん知識豊富で、親切に生徒への確かなアドバイスを与えてくれます。そして、何よりも役立ったのは図書館のホームページでした。そこでは蔵書検索ができるのはもちろん、各種電子ジャーナルを見たり、また、インターネットで情報を集め易いように学部別に推薦サイトをリストアップしてあるなど、情報を得るためのツールがいっぱいあり、私はいつもリサーチに利用していました。

日本に帰ってきて不便に思うのは、情報収集の大変さです。インターネットがアメリカほどに普及していないため、情報量も少なく、通信料などのコストの為に個人での情報収集は困難です。ゆえに、日本では図書館の利用価値はさらに高いのではないかと思います。そのことに気付いた頃にはもう卒業して



しまいましたが、今改めて外大の図書館を利用してみると、UTSA に引けを取らない程利用者へのサポートがしっかりしていることを知りました。また、在学中には知らなかった便利なシステムや、新しくなったホームページがあることを知り、これからもどんどん利用していきたいと思っています。在学中の皆さんも外大の図書館をフルに活用してみたいかがでしょうか。

そねだ ともみ

（英米語学科 2000年度卒業生）